重要なのは、ライフサイクルを絶つこと。

知らないところで増殖する「ハエ予備軍」の駆除を含めた
総合的な駆除が必要です。

ライフサイクルを絶つために。

発生源対策

ハエの発生する場所（糞等）に薬剤を散布する根本駆除対策。ハエの発生シーズン前から定期的に行います。主にIGR剤を使用。状況によっては、他の系統の殺虫剤を使用し、幼虫の生息場所にしっかり散布することが肝要です。もちろん、定期的な除糞も大切です。

成虫対策

誘引殺虫

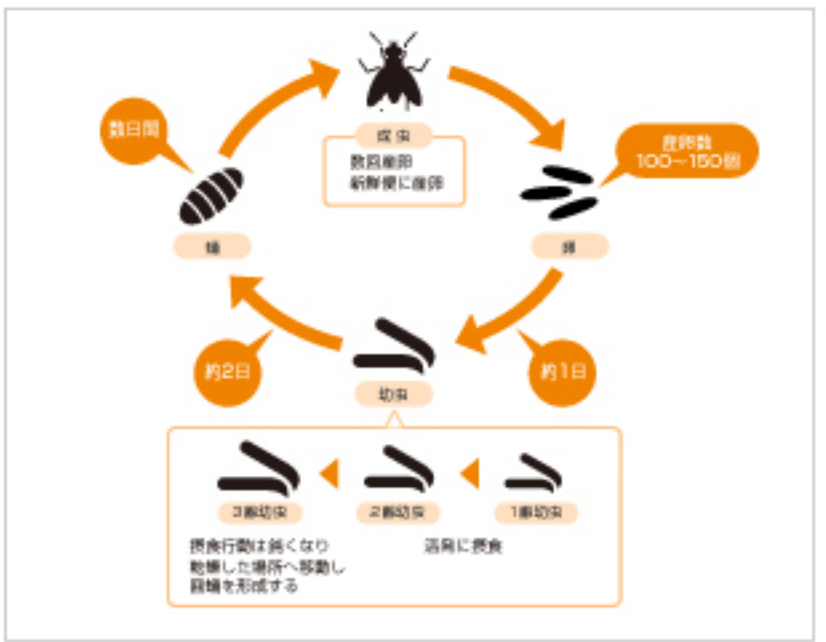
ハエの成虫が好む餌と殺虫剤を混合してベイト剤を作成し、休息場所等へ処置します。ドライベイト・ウェットベイトを駆使して、防除を行います。誘引して殺虫するため、大量発生した場合は、効果が期待できません。蛹のある場所周辺が効果的に駆除できます。

直接散布

発生したハエの大多数を防除するのに適しています。

●直接散布：成虫に対し、直接散布。
●残留噴霧：ハエの休息場所（柱や壁など）へ薬剤を処置し防除します。

ハエのライフサイクル



※クリックすると大きなライフサイクルが表示されます

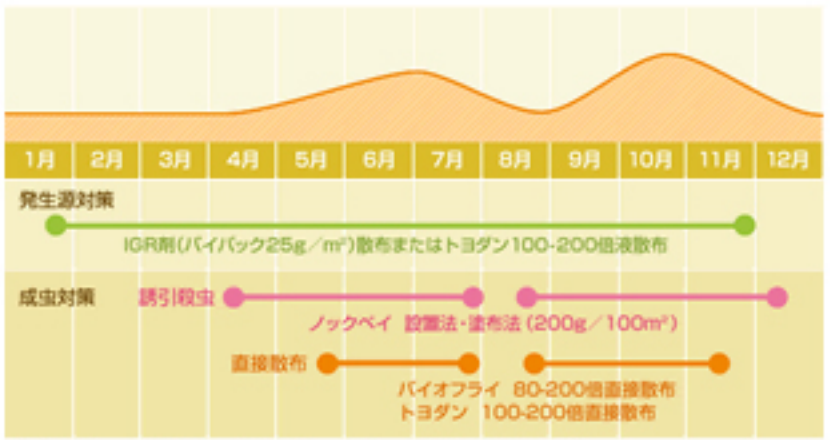
適切なタイミングで駆除するために。

適切な駆除タイミングは、対策によって異なります。ハエの発生源対策では、ほぼ1年を通じた対策が必要です。ハエ成虫対策ではハエの発生シーズンに誘引殺虫を、最も活動が活発な時期に直接散布を実施します。ハエの活動時期にあわせて、綿密な駆除計画を立てましょう。

駆除剤の効果的な使用法

イエバエの活動は、梅雨の前後と夏から秋の時期に活発化します。この時期は、バイオフライ（80～200倍）やトヨダン（100～200倍）の直接散布による成虫対策を重点的に行います。また、通年の成虫対策として、ノックベイト（200g／100m^2）の設置法や塗布法による駆除を行います。
一方で発生源対策は、ほぼ通年の駆除が必要です。IGR剤（バイパック：25g／m^2）の散布またはトヨダン（100～200倍液）の散布を行い、ハエの成長を防ぎましょう。

ハエの駆除対策カレンダー（イエバエの例）



※クリックすると大きなカレンダーが表示されます